

高等学校の探究学習の指導に関するアンケート 集計結果

1. 調査概要

(1) 調査背景・目的

- 福島県内の高等学校の探究学習の充実や発展のために高等学校との連携や支援を進める上での基礎資料として、探究学習の現状と課題を把握するため

(2) 実施状況

- 調査対象：福島県内の国立・県立・私立の高等学校(課程)の 103 校・課程¹
- 調査方法：Web アンケート調査
- 調査期間：2023 年 9 月 14 日～10 月 12 日

(3) 回収状況

- 回収数： 84 校、124 件²
- 回収率： 81.6%

(4) 調査結果を見る際の注意事項

- 設問文横に記載の記号は、それぞれ以下を意味する。
SA: 単一回答、MA: 複数回答、FA: 自由回答
- 【学校別】と記載のある設問は学校別に集計を行った。
- 回答は回答件数を 100%として算出し、小数点第 2 位を四捨五入している。このため、回答率の合計が 100%にならない場合がある。
- 複数回答の設問では、回答率の合計が 100%を超える場合がある。

本件に関する問い合わせ先

福島大学 教育推進機構 「地域 × データ」実践教育推進室

斎藤 毅(教育推進機構 特任専門員) TEL:024-548-8251 Mail:r419@ipc.fukushima-u.ac.jp

加藤 穂高(教育推進機構 特任講師) TEL:024-504-2878 Mail:r429@ipc.fukushima-u.ac.jp

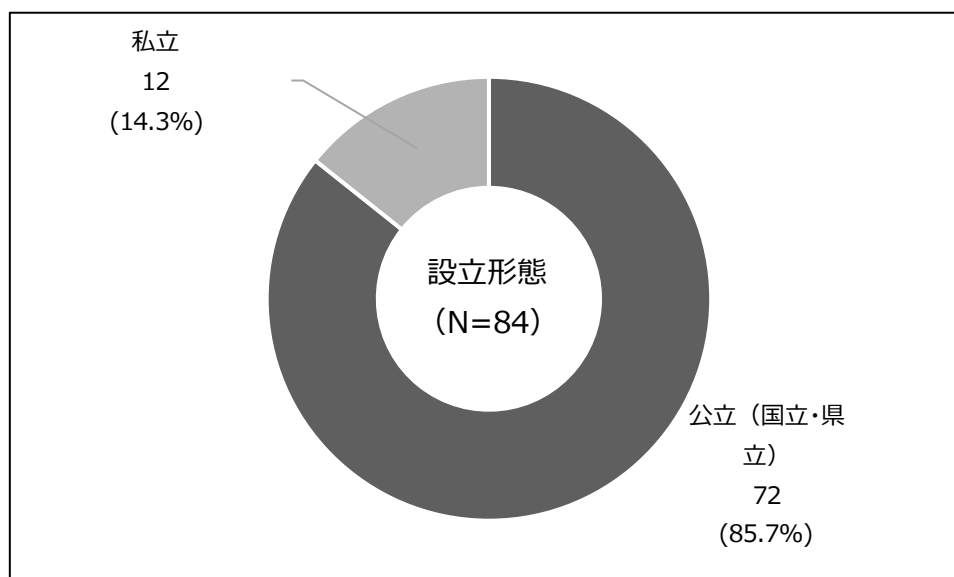
¹ 休校中・特別支援学校を除く。なお、校舎や課程が異なる場合は、それぞれカウントしているため各種資料と数値が合致しない場合がある。

² 同一校内で複数の教員が回答した場合がある。

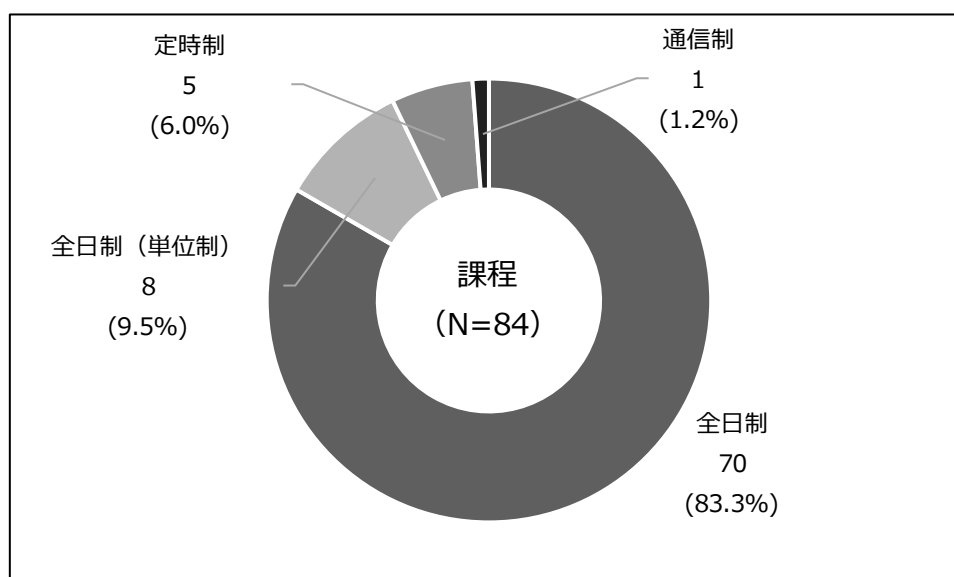
2. 調査結果

(1) 基本情報

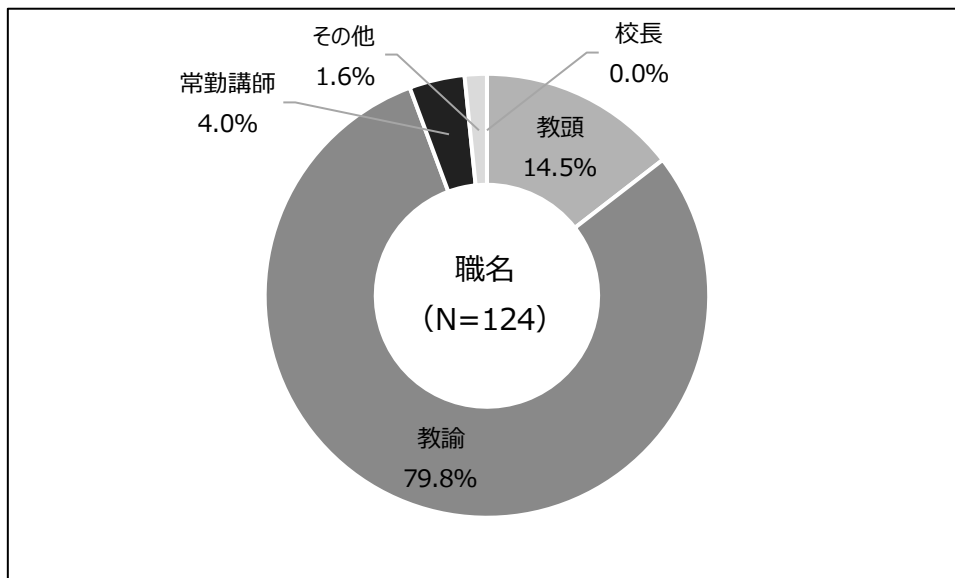
【学校別】Q1-1 学校名をお答えください。[FA]



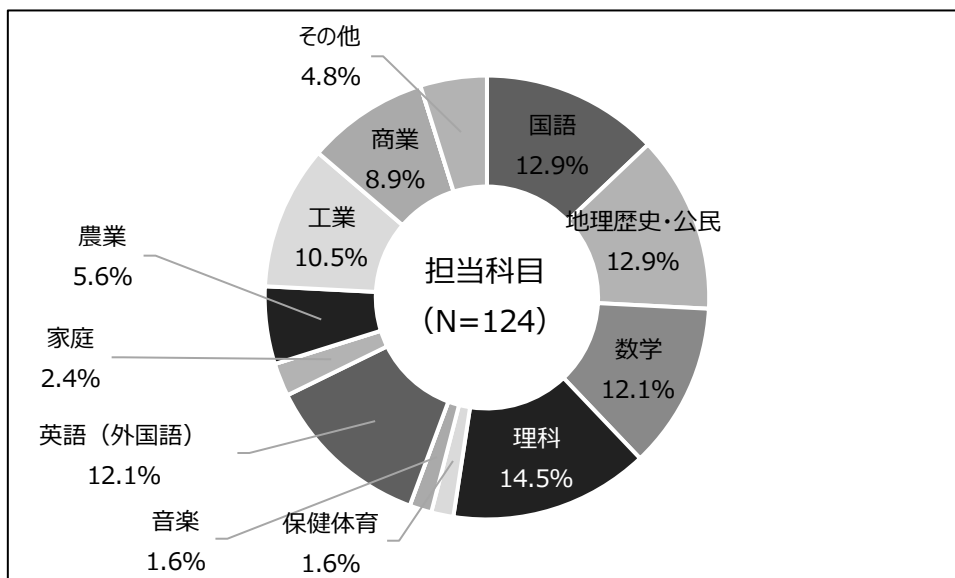
【学校別】Q1-2 高等学校の課程をお知らせください。[SA]



Q1-3 回答される先生の職名をお答えください。[SA]



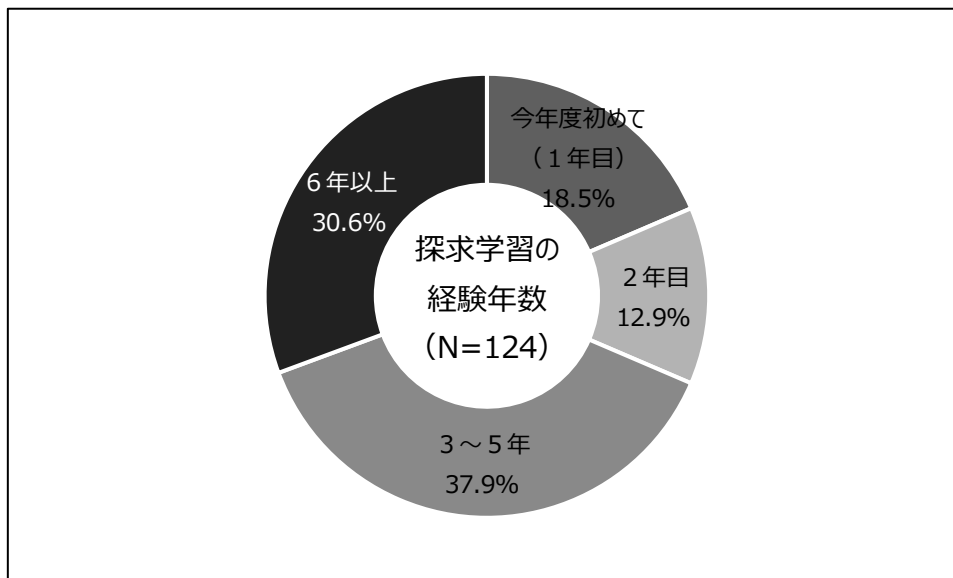
Q1-4 回答される先生の担当教科名をお答えください。(複数ご担当の場合は主な担当の方をお答えください。)
[SA]



(2)実施状況

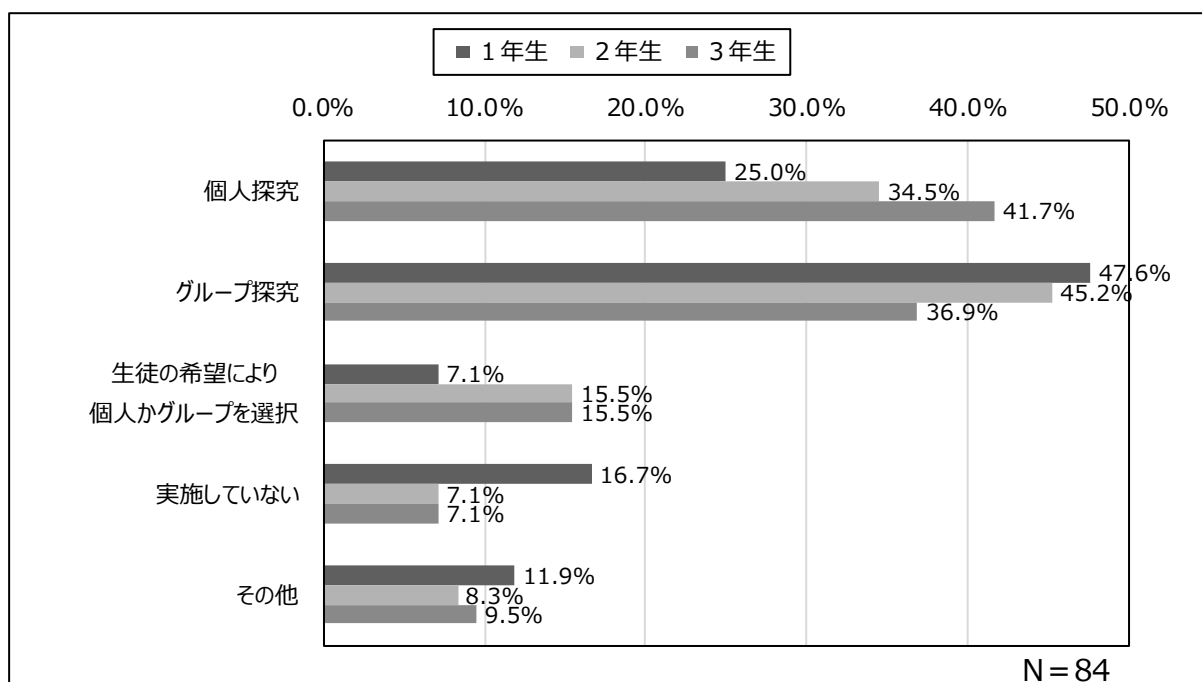
Q2-1 回答される先生は、探究学習を担当された経験年数(合計)は何年ですか。[SA]

- 探究学習の経験年数は、「3～5年」が最も多く37.9%、次いで「6年以上」が30.6%となっている。
- 探究学習は2022年度から必修科目となったが、それ以前から取組を行っている学校が少なくないことが分かる。



【学校別】Q2-2 探究学習の実施学年と形態をお答えください。(学年ごとに項目をチェックしてください。)[MA]

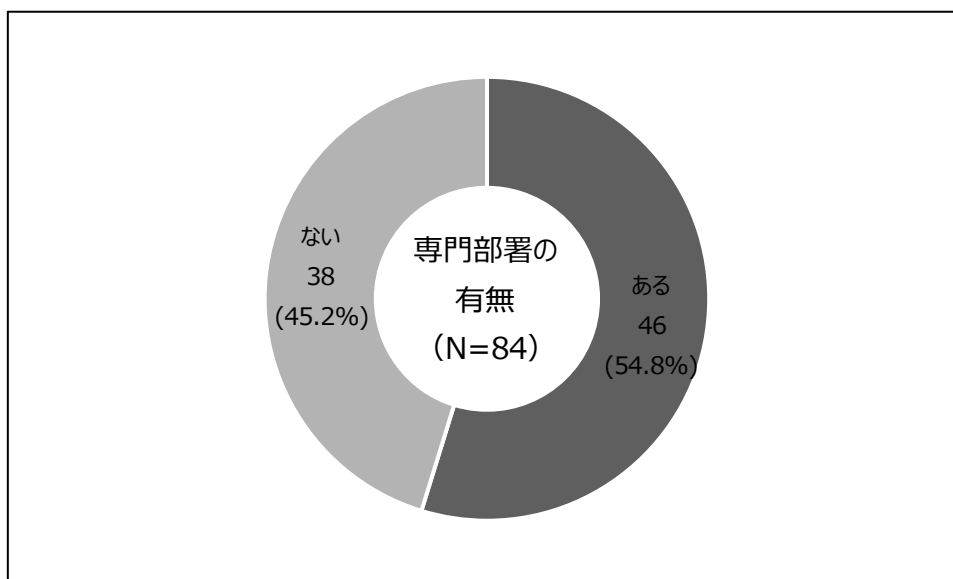
- 学年ごとの探究学習の実施形態をみると、1年生では「グループ探究」が最も多く47.6%、次いで「個人探究」が25.0%となっているが、3年生では「個人探究」が最も多く41.7%、次いで「グループ探究」が36.9%となっている。
- 低学年ほどグループ探究が多く、学年が上がるにつれて個人探究が多くなっている。



(3) 指導体制

【学校別】Q3 探究学習の企画や運営を専門的に行う担当部署(係)は、校務分掌の中に独立して設けられていますか。[SA]

- 探究学習の企画・運営を行う担当部署(専門部署)の有無をみると、専門部署がある学校は 54.8%(46 校)、ない学校は 45.2%(38 校)となっている。

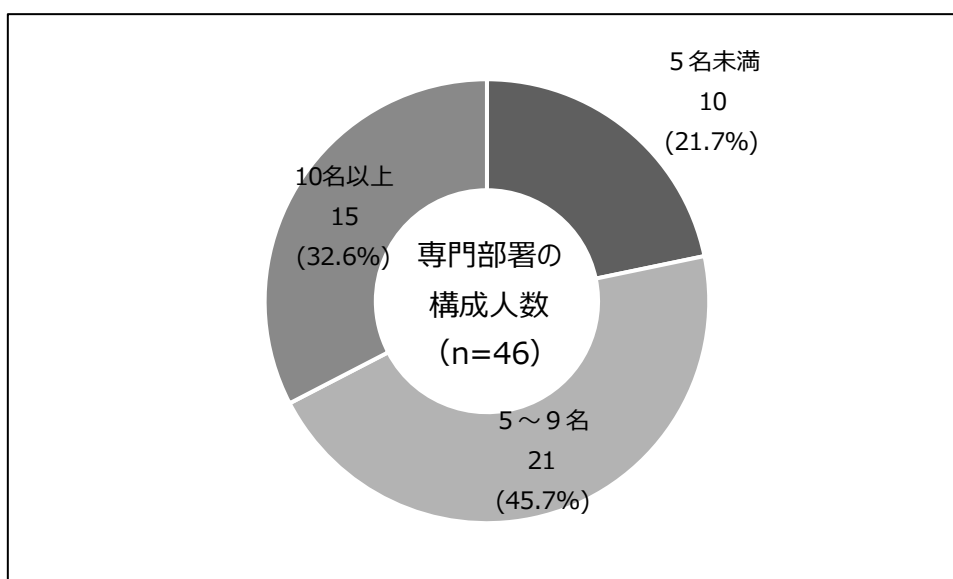


【学校別】Q3-1-1 探究学習の担当部署(係)の名称をお答えください。[FA]

【略】

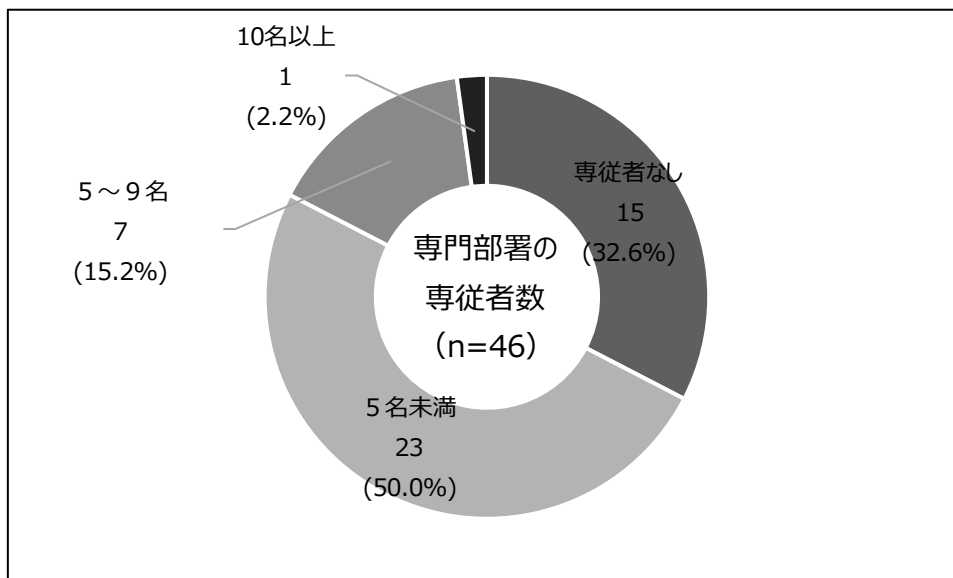
【学校別】Q3-1-2 探究学習の担当部署(係)の構成人数は何人ですか。[FA]

- 専門部署の設置がある学校(46 校)に部署の人数を尋ねたところ、「5~9名」が最も多く 45.7%、次いで「10 名以上」が 32.6%となっている。



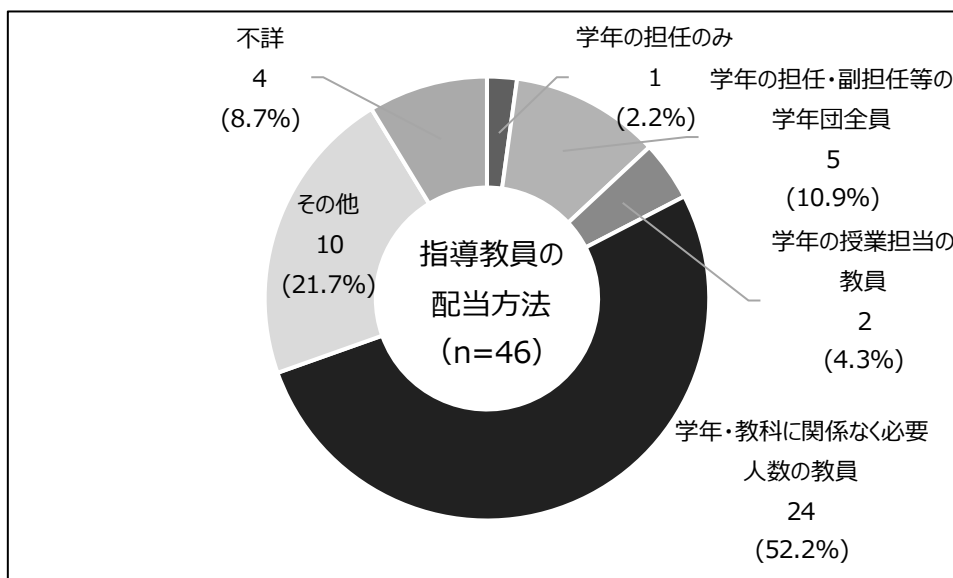
【学校別】Q3-1-3 探究学習の担当部署(係)のうち専従者は何人ですか。[FA]

- 専門部署の設置がある学校について専従者の人数を尋ねたところ、「5名未満」が最も多く 50.0%、次いで「専従者なし」(兼務者のみ)が 32.6%となっている。



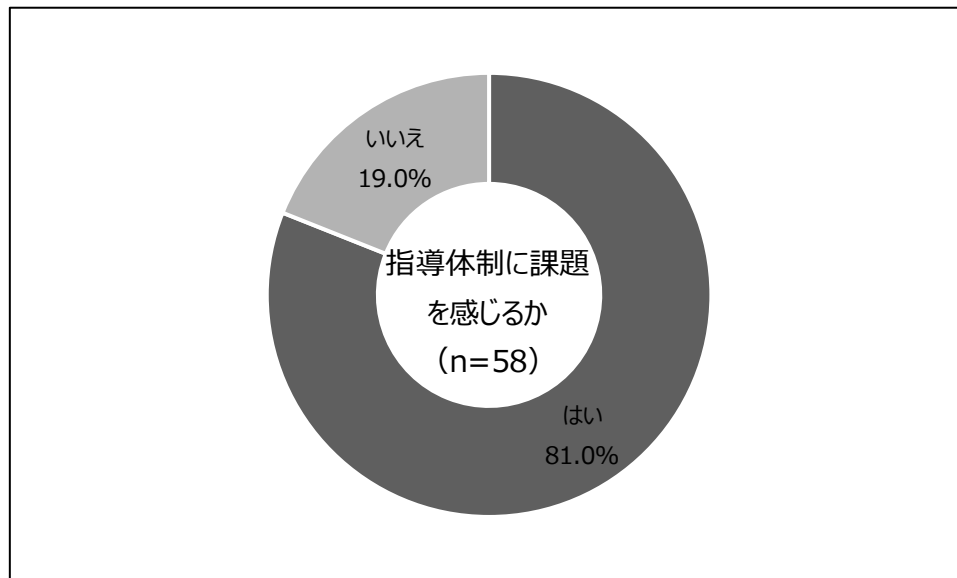
【学校別】Q3-2 探究学習の指導教員はどのように配当していますか。[SA]

- 専門部署の設置がある学校について人員の配当方法を尋ねたところ、「学年・教科に関係なく必要人数の教員」が最も多く 52.2%、次いで「学年の担任・副担任等の学年団全員」が 10.9%となっている。



Q3-3 探究学習を指導する上で、校内の指導体制で課題だと感じておられることがありますか。[SA]

- 専門部署の設置がある学校の教員(58名)に指導体制に課題を感じるか尋ねたところ、「はい」が81.0%を占めている。



Q3-3-1 はいと回答した方は、具体的な課題を自由にお書きください。[FA]

※主な回答

● 教員の意識格差

- ・ 「教員によって、指導に対する意識に差がある。(総合的な探究の時間の重要性に関する意識の差が著しい。全員が指導者になるのは難しい。)」(公立高校・全日制)
- ・ 「①探究学習の指導技術の底上げ(探究学習に対する熱量や意識の違いの格差がものすごく大きい) ②教員数が多いため一緒にミーティングや研修を持つのが難しい。 ③学校が忙しすぎる」(公立高校・全日制)
- ・ 「打ち合わせの時間が必要だが十分に時間が取れない。先生方によって温度差がある。指導方法がわからない先生が多い。」(公立高校・全日制)

● 人員不足

- ・ 「3年次の探究では、課題研究が主な活動内容ですが、年度により割り当てられる教科に偏りがあり、生徒の希望に添えないことがあります。」(公立高校・全日制)

● 業務の分担と連携

- ・ 「どこが主となって計画・実施するのか、明確でないところ。学年の担当者(文理科の担任)が結果、主となって動いており、負担がかかりすぎていること。」(公立高校・全日制)
- ・ 「総合的な探究の時間の指導について、学年団に負担が偏りがちである。(業務の分担ができていない)」(公立高校・全日制)
- ・ 「探究を主導する部署と学年担任の連携が不十分」(公立高校・全日制)

● 時間不足

- ・ 「公務多忙のため総合学習の計画立案等にかかる時間がとれない」(公立高校・全日制)
- ・ 「受験のための学習が優先となり、生徒に取り組む余裕がない。」(公立高校・全日制)

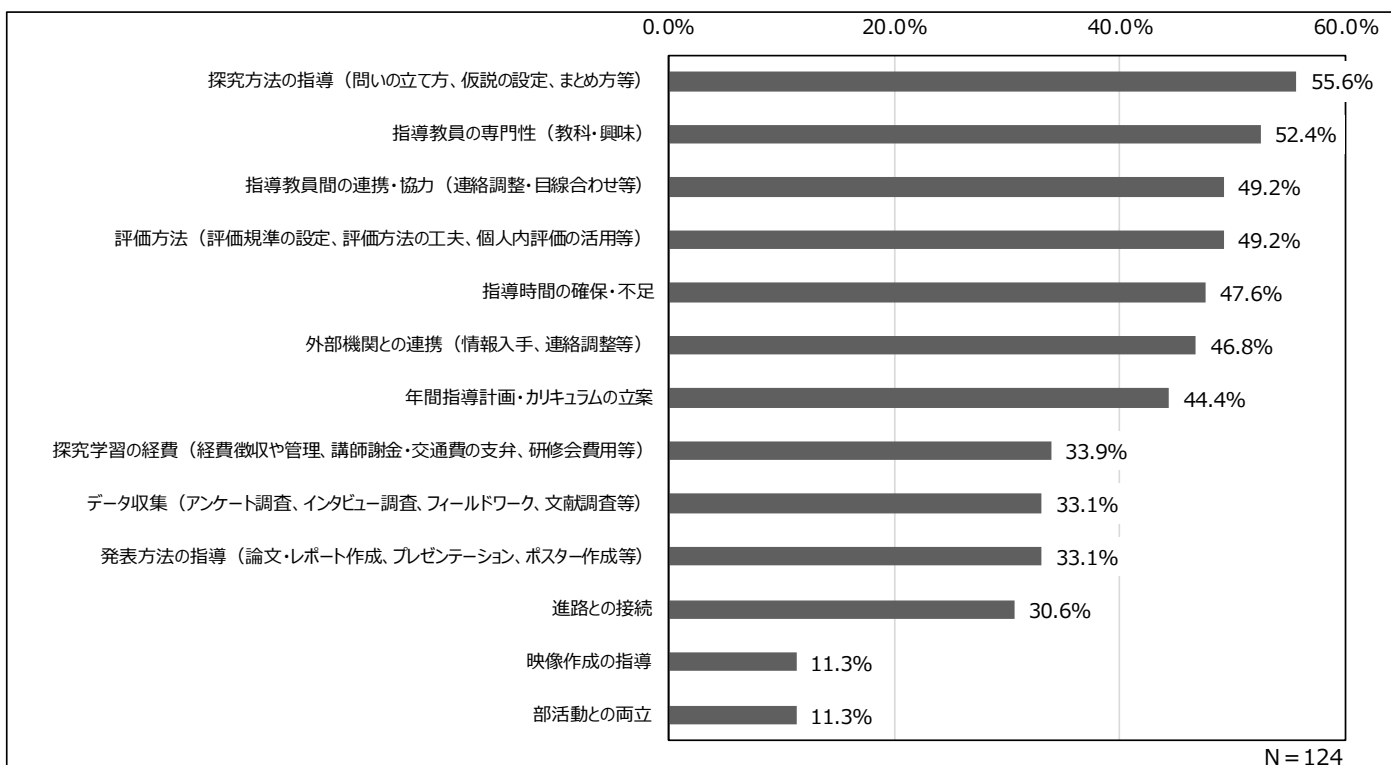
(4) 指導上の課題

Q4-1 探究学習を主に担当される先生が探究学習の企画や運営のために、参考にされている情報源や参加された研修等があれば具体的にお書きください。[FA]

【略】

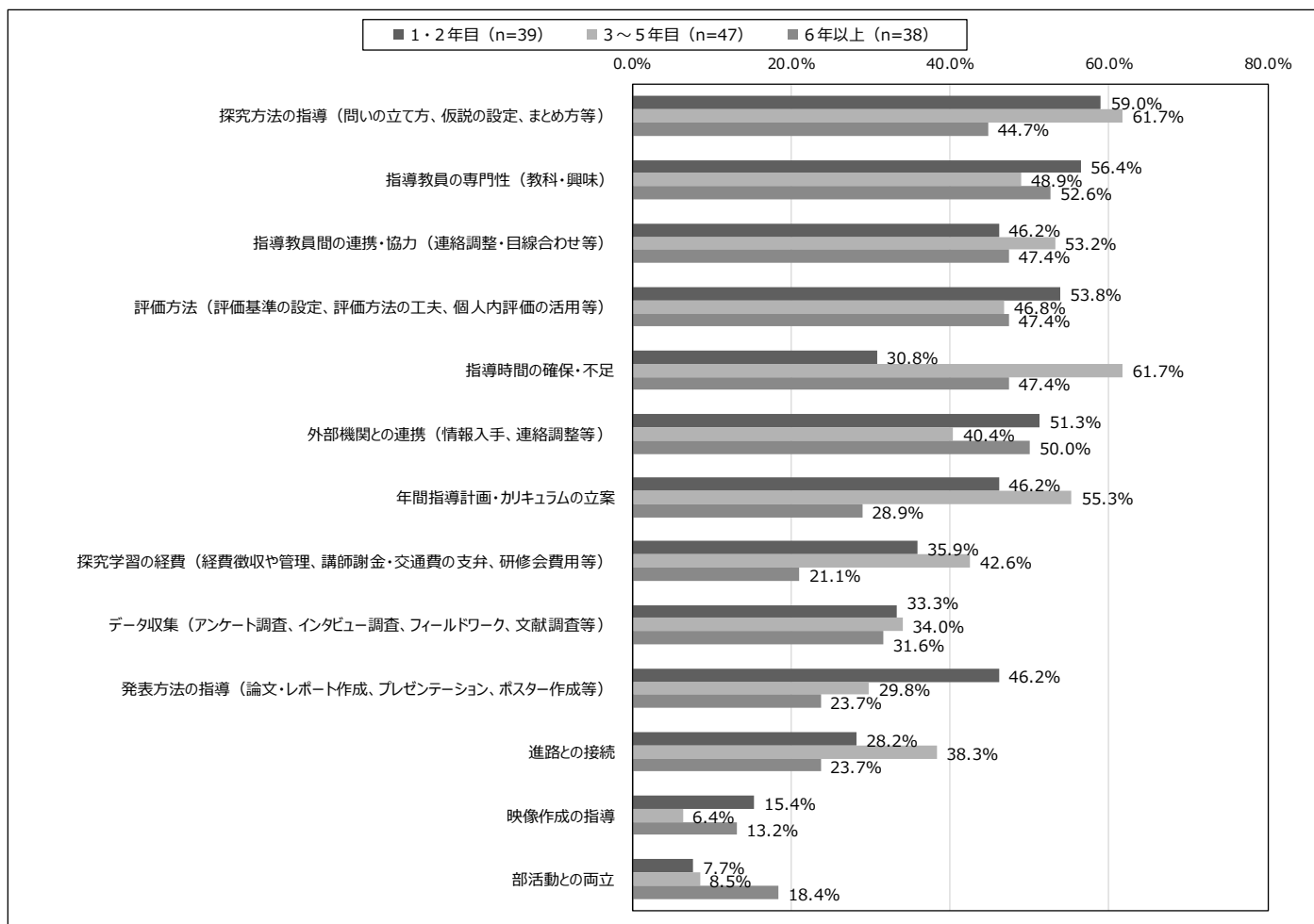
Q4-2 探究学習の指導にあたられている先生が、指導する上で困っていることや課題と感じられていることは何ですか。下記から選んでください。[MA]

- 探究学習の指導に当たって課題と感じていることを尋ねたところ、「探究方法の指導(問いの立て方、仮説の設定、まとめ方等)」が最も多く 55.6%、次いで「指導教員の専門性(強化・興味)」が 52.4%、「指導教員間の連携・協力(連絡調整・目線合わせ等)」、「評価方法(評価基準の設定、評価方法の工夫、個人内評価の活用等)」が 49.2%となっている。



【経験年数別】

- 経験年数別にみると、1・2年目では「探究方法の指導(問いの立て方、仮説の設定、まとめ方等)」が最も多く59.0%、次いで「指導教員の専門性(教科・興味)」が56.4%、「評価方法(評価基準の設定、評価方法の工夫、個人内評価の活用等)」が53.8%となっている。
- また、3～5年目では「探究方法の指導(問いの立て方、仮説の設定、まとめ方等)」と「指導時間の確保・不足」が最も多く61.7%、次いで「年間指導計画・カリキュラムの立案」が55.3%となり、6年以上では「指導教員の専門性(教科・興味)」が最も多く52.6%、次いで「外部機関との連携(情報入手、連絡調整等)」が50.0%、「指導教員間の連携・協力(連絡調整・目線合わせ等)」、「評価方法(評価基準の設定、評価方法の工夫、個人内評価の活用等)」、「外部機関との連携(情報入手、連絡調整等)」が47.4%となっている。
- 経験年数が短い教員では、「探究方法の指導」や「評価方法」などの探究の教え方に関する課題が多い一方で、経験年数が長くなるにつれて「指導時間の確保・不足」や「外部機関との連携」など全体のマネジメントに関する課題を挙げる割合が高まる傾向が見られる。



Q4-3 探究学習を指導される上で、先生が特に困っておられることや課題と感じられていることを具体的にお書きください。[FA]

※主な回答

● 探究方法の指導

- ・ 「教師の働きかけと生徒の自主性の折り合いをどうつけるか」(公立高校・全日制)
- ・ 「探究活動を行う主体は生徒であるので、支援やサポートは十分に行うが、あまり協力しすぎて誰の探究活動かわからない状態になってしまうところには疑問がある」(公立高校・全日制)
- ・ 「生徒の能力の差で、探究活動の進め方に差が出てしまい、こちらで誘導すると探究活動になっているのか矛盾を感じる」(公立高校・定時制)
- ・ 「1年次に探究テーマを決めても、2年次に希望進路や興味・関心のある分野が変わってしまい、テーマが二転三転する生徒がいる」(公立高校・全日制)
- ・ 「継続的な探求を実施できない」(公立高校・通信制)
- ・ 「地域に出ることを最優先にしているが、生徒の文献調査、知識の蓄積が不十分な」(公立高校・全日制)

● 指導教員の専門性

- ・ 「生徒の興味、関心がある内容について、教員側の知識や技術が不足、内容の変更をせざるを得ない状況がある」(公立高校・全日制)
- ・ 「専門家がいるわけでもないのに、教員が専門外のことに多忙化の中時間を費やし指導をしていくには困難な状況である。」(公立高校・全日制)

● 指導教員間の連携・協力

- ・ 「先生方の温度差に苦慮しています。今年度は、この後「探究活動についての教職員研修会」を実施予定です。」(公立高校・全日制)
- ・ 「学校全体で探究活動に力を入れようという教員の意欲がまだまだ足りない。3年になって進路指導をしていく中で「2年生の時にもっと探究活動をしておけば・・・」という後悔ばかりが聞かれるが、後悔する以前に指導をしていなかったり指導の仕方が分からなかったりする教員が多いので、いつも申し送り事項になっては新年度にまたもめるといったことの繰り返し。孤軍奮闘ではどうにもならない。」(公立高校・全日制)
- ・ 「探究に対する教員側の熱量の差がある。受け身の生徒に対して探究活動を通じて自主性を養いたいと思っているが、実際は数人の生徒の成長しか見られていないと感じている。失敗を恐れて向かえない生徒へのアプローチのしかたや、教員のやる気を引き上げる方法を知りたいと思う。」(公立高校・全日制)

● 評価方法

- ・ 「評価規準の設定やその活用方法が明確になっていないため、活動によって生徒がどのように変容したのかが曖昧である」(公立高校・全日制)
- ・ 「生徒の成長を評価しにくく、進路との継続性に疑問が少なからずある」(私立高校・全日制)

● 指導時間の確保・不足

- ・ 「時間が足りない。本当は個別指導をもっとしたい。」(公立高校・全日制)
- ・ 「学校全体 240 名への一斉指導をどのようにするのか。探究に対する個別指導が必要かと思うが、それをする時間が無い。」(公立高校・全日制)

- ・ 「課題研究のために校外学習などを行いたいが、授業時間内では難しい。放課後は部活動で生徒たちは探究学習のために自主的に動ける時間が制限されてしまう。」(公立高校・全日制)

● 外部機関との連携

- ・ 「外部との連携。学校の中だけで閉じずに、生徒には外に出て、専門家の方の意見を聞くなどしてほしいが、実際生徒の自主性に任せざるを得ない状況。もっと外とつながるような体制づくりが必要だと感じている。」(公立高校・全日制)
- ・ 「生徒が、実際に体験や実験、調査を行わせる時の外部機関を見つけること。助言を与えてくださる機関がなく、浅い調べになっていること。」(私立高校・全日制)
- ・ 「外部との連携が多すぎて、生徒自らが課題を設定する時間等がとれず、とりあえず、こなしている状態」(公立高校・全日制)

● 予算・設備

- ・ 「生徒たちがものづくりを行う上での材料費等の高騰と予算削減により十分な活動費用が準備できない」(公立高校・全日制)
- ・ 「設備が整っていない」(公立高校・全日制)

● 人員不足・過重負担と偏り

- ・ 「個別課題学習には人的配置が限界があるため困難である。そのため、少数の集団として課題を設定して実施している。本来は個々に課題を設定して展開することが望ましいとは、考えている。」(公立高校・全日制)
- ・ 「校内(専従と各年次)、外部との連携・調整。とにかく人手が足りない。」(公立高校・全日制)
- ・ 「実業高校の探究学習は専門科目代替が多いので、普通科教科教員は担当していないこと。」(公立高校・全日制)
- ・ 「実務を担当している学年の先生方の負担が大きい。マニュアルがないため、活動を企画・準備していく過程が大変だと感じる。」(私立高校・全日制)

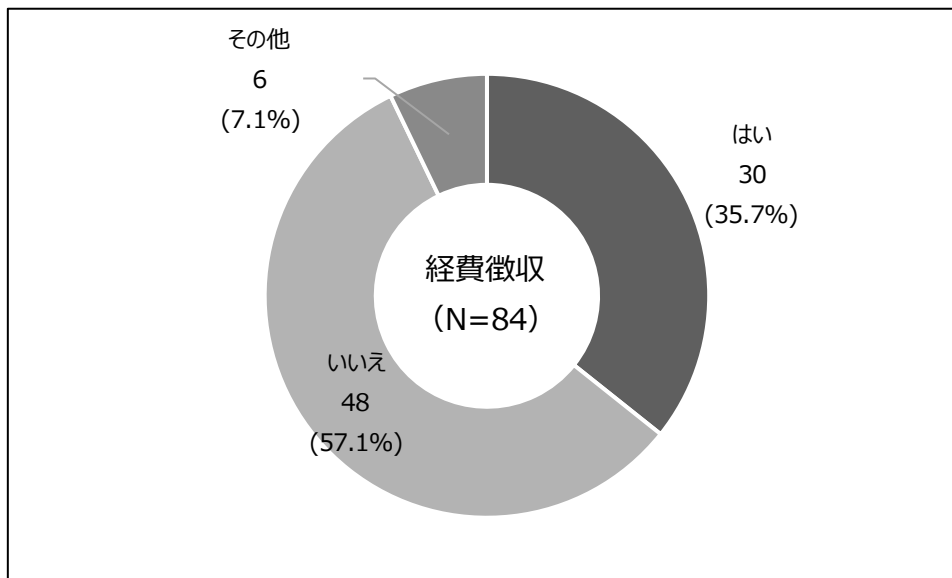
● その他

- ・ 「始まったばかりで全体像が見えないことが不安です」(公立高校・全日制)
- ・ 「年間指導計画の立案、深い問いの立て方、オリジナルデータの収集、教材の費用など困ることばかりです」(私立高校・全日制)

(5)経費

【学校別】Q5-1 探究学習の経費を徴収していますか。[SA]

- 探究学習にあたって経費を徴収しているか尋ねたところ、徴収している学校は 35.7%、徴収していない学校は 57.1%となっている。



Q5-2 徴収している金額はいくらですか。(担当される学年の金額か、最も高い学年の金額をお書きください。)

[FA]

- 学校によって毎年徴収する場合や 3 年間でまとめて徴収する場合があるなど徴収方法が異なるため、集計は行っていないが、おおむね年間で数千円程度徴収している場合が多い。

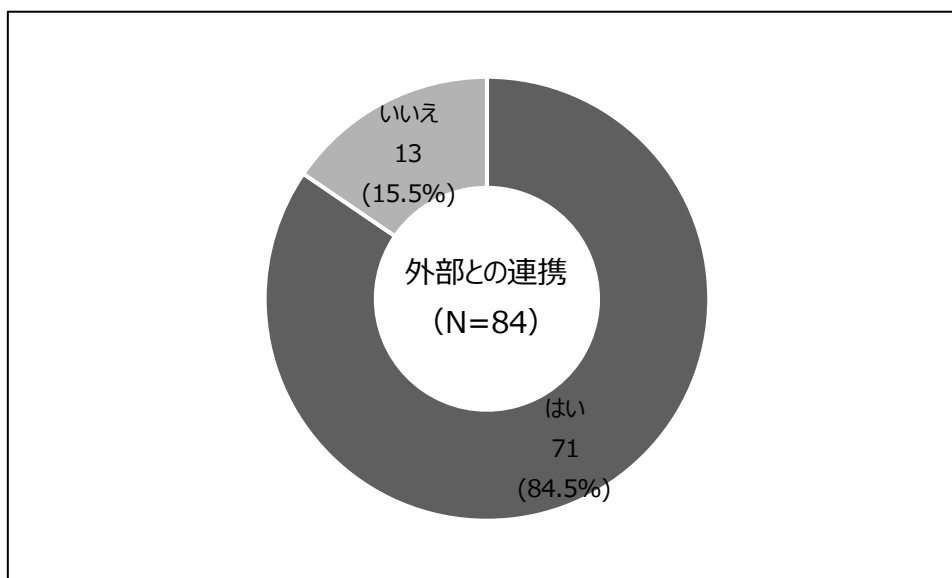
Q5-3 徴収された金額は、どのようなものに支出されていますか。[FA]

- 教材費(テキスト代や使用するノートやポスターなど)や交通費(バス代など)といった回答が多い。

(6) 外部機関との連携

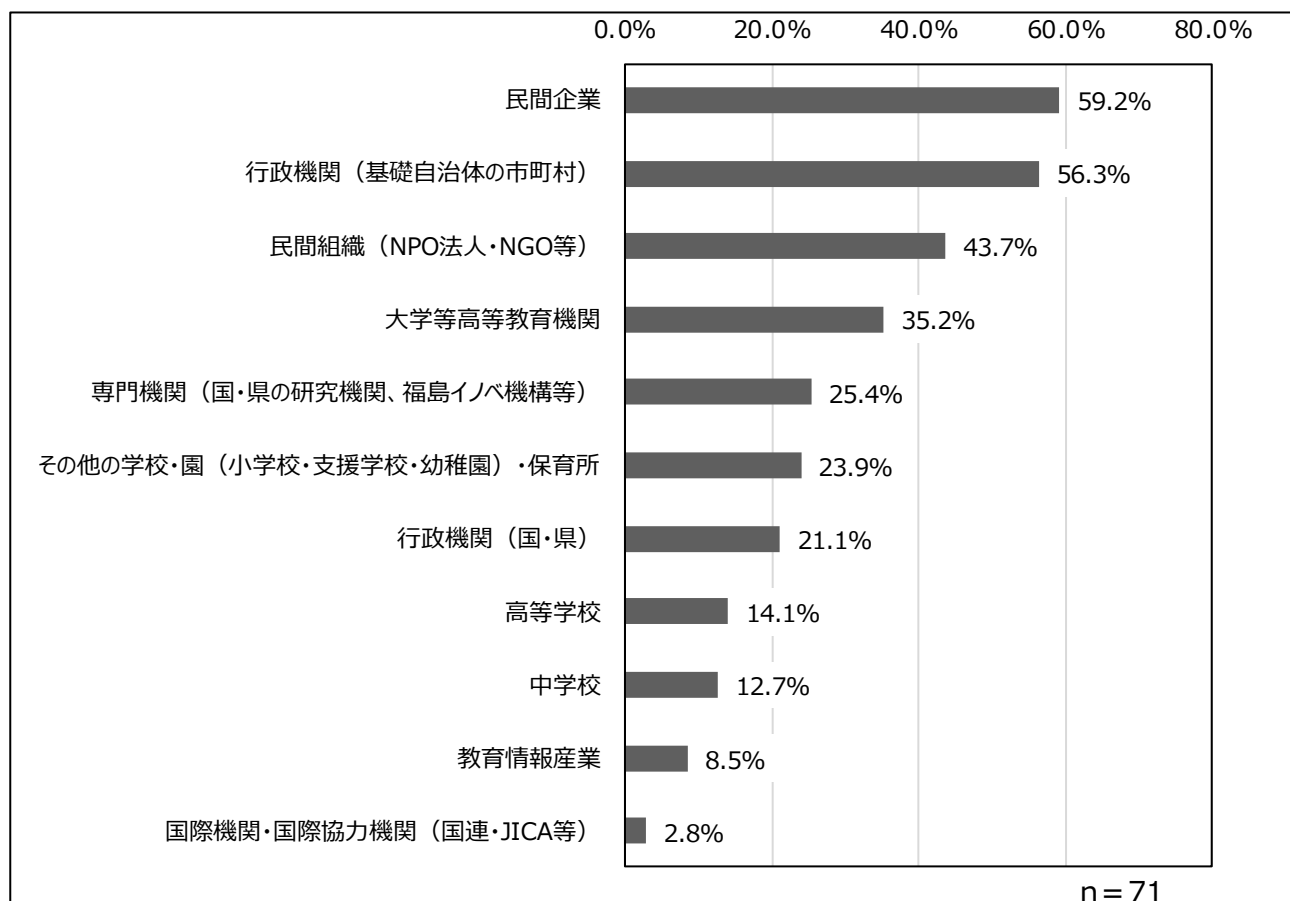
【学校別】Q6 探究学習に関わって、外部機関と連携を行っていますか。[SA]

- 外部との連携を行っている学校は全体の 84.5%を占めている。



【学校別】Q6-1 外部機関と連携を行っている場合は、あてはまるものをすべて選んでください。[MA]

- 連携先としては、民間企業が最も多く 59.2%、次いで行政機関(基礎自治体の市町村)が 56.3%、民間組織(NPO法人・NGO等)が 43.7%となっている。



Q6-2 連携している外部機関の名称、その他と回答された方の名称を、差し支えない範囲でお書きください。

[FA]

【略】

Q6-3 連携している外部機関とは、そのような内容の連携をしているのか、差し支えない範囲で結構ですので、できるだけ具体的にお書きください。[FA]

※主な回答

● **民間企業との連携例**

- ・ 「地元企業と連携しての商品開発」(私立高校・全日制など)
- ・ 「各企業4～5名の生徒を割り振り、各企業の困りごとを解決するための活動を行う。(受発注システムの見直しや売り上げ向上のための POP 作成など)」(公立高校・全日制)
- ・ 「職場体験実習や見学」(公立高校・全日制)
- ・ 「株式会社が提供するサービスを探究学習の教材として利活用」(公立高校・全日制)

● **市町村との連携例**

- ・ 「町の予算で高校魅力化コーディネーターを採用、配置していただいています。その方の協力を得て、1年生では、①役場職員による講話の設定 ②自治センター見学の手配 ③大学生を講師に招いての情報のまとめ方の講座の調整 ④その他 2年生では、①各個人・グループが設定したテーマについて、それについて詳しい地域人材と紹介し、つないでいただく。②取材に向けた電話の対応の指導 ③外部講師講話の提案 など、教員としての普段の業務との同時進行ではとうてい難しい業務を担当していただいていると感じています。その他にも、町からは町全体に関する探究、生徒全員が関わる活動に関してはバスを運行していただいたりと、多くのバックアップをいただいています。」(公立高校・全日制)
- ・ 「令和5年度より市と連携協定を締結しており、市役所職員による出前講座、探究に係る指導助言を依頼している」(公立高校・全日制)
- ・ 「役場の方にはインタビューなど、生徒の希望があればつなぐ形で協力をいただいています。また、中間発表会に来ていただき、助言もいただいています。」(公立高校・全日制)

● **民間組織(NPO 法人・NGO 等)との連携例**

- ・ 「社会生活・自己実現・多様性を貴ぶ地域社会を実現することを目指し活動している団体で、当校では、「生徒の居場所づくり」の一環で連携をさせていただいています。」(公立高校・定時制)
- ・ 「コーディネーターとして入っていただいている。外部につないでいただいたり、計画を一緒に考えて頂いたりしている。」(私立高校・全日制)

● **大学等の高等教育機関との連携例**

- ・ 「生徒の各グループに、大学の先生が1名ずつアドバイザーとしてつく」(私立高校・全日制)
- ・ 「大学とは、高大連携協定を結んでいるので、大学生や大学の先生に助言をいただくような形を整えているところです。」(公立高校・全日制)
- ・ 「大学出前授業」(公立高校・全日制)

● **専門機関との連携例**

- ・ 「高等学校ものづくりコンテスト参加における技能・技術の向上」(公立高校・全日制)
- ・ 「講演」(公立高校・全日制)